教　師　ノ　ー　ト

日付	2018年12月　9日
単元	クリスマス
テーマ	処女降誕
タイトル	マリヤへの御告げ
テキスト	ルカ1：26－56
参照箇所	ルカ1：39－55、マタイ1：18－25、イザヤ7：14,9：6－7

暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい）
　IIコリント5：21

AG 日曜学校教案参照箇所
　小学科下級1巻-主題5-課2　　小学科下級2巻-主題5-課2　　幼稚科2巻-主題2-課2　　幼稚科1巻-主題2-課1

❑導入

例：創世記のメッセージを思い出そう。アダム以来、どんな人間も罪を持っているということを学びました。その罪から救うために来てくださったイエスさまですが、あれ？イエスさまは神さまだけど人間・・・ということは・・・罪人？？そんなわけないよね。じゃあイエスさまは、どんな特別な生まれ方をされたんだろう？？

　マリヤへの「受胎告知」の箇所は、メッセンジャーにとっても、子どもたちにとっても、既に耳慣れたストーリーとなっているかもしれません。紙芝居・絵本・劇・ビデオなどを用い、さらに効果的に語るよう準備しましょう。ただし、力強いメッセージをするために最も重要なのは、（視覚教材ではなく）メッセンジャーが「処女降誕」について、確信と感動をもっていることです。

では、「処女降誕」にはどんな意味があるのでしょうか？

　イエスの降誕によって、神の救いの計画は、いよいよ地上でスタートします。そしてその第1歩が、「処女降誕（聖霊によって処女マリヤが神の子をみごもる）」という、人間には到底不可能な、超自然の方法だったのです。つまり、**救いの計画は、はじめの1歩から、神ご自身が、神にしかできない方法で実現してくださったのです。**私たちの救いは、まったく神の業です。人間は何もしていません。救いは、神からの一方的な恵みの賜物なのです。（確かにマリヤの従順な信仰が用いられましたが、神のあわれみと、聖霊の力が働かなければ、何も始まりませんでした。）「救い」は神から来たのです。メッセンジャーは、テキストをよく読み、神に不可能なことはひとつもないこと、人間には絶対にできない「救い」を、神ご自身が実現してくださったことをもう一度確信しましょう！そして、それは、神の一方的なあわれみの愛のゆえであることを思い起こし、感動をもって語りましょう！処女マリヤから生まれたイエスは、100％人間で100％神です。100％人間だからこそ、イエスは私たちと同じ苦しみを味わい、100％神であるイエスが十字架にかかってくださったからこそ、全人類の罪が赦されたのです。

❑ポイント1　御使いが、まだ結婚していないマリヤに「あなたは男の子を産みます」と告げました（26－34節）

　御使いガブリエル（ダニエル8：16,9：21、ルカ1：19にも登場）がマリヤに現れました。マリヤが「処女」であること、婚約者ヨセフがダビデの子孫であることは、重要なポイントですので、26・27節の短い紹介の中でしっかりと強調されています。「おめでとう」は、妊娠の祝いではなく、救いのおとずれを喜ぶあいさつです。誕生日でも宝くじが当たったわけでもないのに、突然「おめでとう」と言われたら、だれでも「何のこと？」と戸惑うでしょう。御使いはマリヤの困惑を察し、続けて説明をします。ダビデの家系から出て、イスラエルを治めるというのは、ユダヤ人にとって旧約聖書の救い主のイメージにピッタリです（IIサムエル7：12-16、詩篇89、イザヤ9：7、エゼキエル34：23-24、ホセヤ3-5など）。またここではイ

エスの性質が、父なる神との関係において強調されています。イエスは神（いと高き方）の子であるから、救い主としての役割を果たすことができるのです。

✍マリヤは御使いからの受胎告知に対して「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知りませんのに」と応えます。これは、ザカリヤが御使いの知らせを信じられず、しるしを求めた応答（18節）とは違うと考えた方がよいでしょう。マリヤは信じなかったのではなく、「ではどうやって処女である私が子どもを生むのですか？」と、詳細を理解するために、自然な応答をしたのでしょう。

✎いいなずけ：結婚を約束した相手のこと。現代の一般的な「婚約」よりも正式で、浮気をしたら罰をあたえられ（申命記22：23-29）、婚約解消の際には書面による手続きが必要でした。このときマリヤは10代半ばだったと考えられています。

❑ポイント2　聖霊の力で、マリヤは神の子を身ごもりました（35－37節）

「どうしてそのようなことがありえましょう？」の答えは･･･「聖霊がマリヤの上に臨み、神の力がマリヤをおおうことによってイエスは生まれる（35節）」です。イエスは人間の結婚によってマリヤの胎に宿ったのではありません。神が、聖霊の力によって与えた子だから、「それゆえ」イエスは神の子なのです（35節）。イエスは人間ですが、同時に罪を犯さない、傷のない神の子です(IIコリント5：21、ヘブル7：26)。神の聖い御霊の力が完全に働いて、イエスを守り・聖別したので、アダムの堕落の本性が、マリヤからイエスに受け継がれなかったのです。神に不可能なことはひとつもありません！神は、人間の力では絶対に不可能である「救い」を、まったく神のわざ(まさに神ワザ)で実現してくださったのです。

❑ポイント3　マリヤは、神さまのみこころを受け入れました（38－56節）

神はエリサベツの妊娠を、マリヤへの「しるし」として既に備えておられました。彼女らは親戚同士でした。マリヤは従順かつ謙遜に、主のみこころを受け入れました。私たちも、このマリヤの信仰と献身を見習うべきです。マリヤがエリサベツに会いに行ったとき、エリサベツは聖霊に満たされました。胎児（ヨハネ）が「おどった」のも聖霊の感動によるものでしょう。「主によって語られたことは必ず実現すると信じきった人は、何と幸いなことでしょう（45節）。」とありますが、本当にそのとおりです、アーメン！

✍マリヤの賛歌（46－55節）は「マグニフィカト」（ラテン語：あがめる）とよばれ、非常に有名です。「卑しいはしため」・「低い者」に「大きな」恵みをあたえ、「高く引き上げ」てくださる主の救いをほめたたえています。（マリヤには、救い主の母として選ばれたことに対するおごり・高ぶりが一切見受けられません。）

❑結論　イエスさまは、結婚していないマリヤから、聖霊によって生まれた、完全な神の御子であり、聖く罪のないお方です

❑適用　（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

例①　イエスさまは、私たちを罪から救うために、人間のかたちになって、この世に来て下さいました。私たちの罪が完全に赦されるためには、罪のない完全な神の子の犠牲が必要でした。あなたは、聖霊の力によって、イエスさまが生まれたことを信じますか？本当の神の御子が、あなたのために十字架にかかって死んでくださったことを信じますか？あなたの命を救うために、神さまがこんなにすばらしいクリスマスの計画をし、その御子の命をプレゼントしてくださったことに感謝していますか？

例②　神さまには不可能なことはひとつもありません。マリヤは、信じられないようなことを、素直に信じて受け入れました。あなたは苦手なこと（とびばこ・算数など）を「そんなのできないよぉ～」とあきらめてしまっていませんか？あなたに大きなことをしてくださる神さまを信じよう！また、病気のためにいのるときなど、神さまに不可能はない！と信じて祈りましょう。